SUBARU

2015年6月30日発行 通巻48号札幌稲雲高校図書局

私の一行 ～こころに響く～

山谷浩光先生

大地から燃えあがつた永遠の焔のやうであつた。人間像といふより人間塔──いのちの生動している塔であつた。

（原文のまま）

これは、法隆寺の百済観音を描写した、亀井勝一郎著「大和古寺風物誌」の一節である。大学受験に失敗して浪人している時に初めて読んで以来の愛読書である。

見学旅行に行く度に、この百済観音に拝するのを楽しみにしているのである。

1－7諸澤朝人

「こわいもの知らず」ほど危険なことはない。

松下幸之助「人生心得帖」より

この一文を読んでから、僕は普段の行動をできるだけ振り返るようにしました。自分のしたことが正しかったか、改善すべき事はないか、とかです。そうしていると何かしようとしたときに慎重になりました。何も恐れない人は自分の力を過信してしまいがちらしいです。そういう人達にこそこの一文を知っておいて欲しいです。

2－1南部みなみ

惑い苦悩した時こそ、立ち止まらねばならぬ

夏川草介「神様のカルテ」より

忙しいときや切羽詰まっているときなど、一度立ち止まって落ち着いて考えることの大切さを教えてくれました。この作品全体もとても感動するのでぜひ読んでみてください。

早崎志保先生

彼はそれは彼のいい性質が他人の心から反射して来るのだとは気がつかなかった。 志賀直哉「赤西蠣太」より

醜男の蠣太が特命を果たすためわざと自ら大恥をかくように仕向けるのですが、逆に周囲に守られてしまい、どうしてこんな自分をみんながかばうのか困ってしまう場面です。

自分のふるまいが人に良い影響を与え、それが自分にはね返ってくるということをわからず戸惑う蠣太の実直さがかわいらしくて、読むたびほのぼのとした気持ちになります。同時に私もできるだけ人に良い影響を与えられる人物になりたいと戒めにもなる一文です。

3－6竹村朋華さん

考え方ひとつで世界は変わるよ

香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」より

よく言われていることだけれど、“自分の考え方”“思い込み”を底からくつがえせば、“自分が見えている世界”というのは一変するのだということを教えてもらった言葉です。人生経験をつんだ本当の意味での「大人」だからこそ言えることなのだと思います。

黒田香先生

どんなに詫びても、取り返しのつかないことはある。重荷を背負ったからといって、それがいつもなにかと引き替えにできるとはかぎらない。罵られることすら叶わない罪もあるし、自己満足だと切り捨てられて終わる償いだってある。

重松清「かあちゃん」より

比較的新しい本(2009年)ですが、「忘れない」ことの大切さ、忘却は罪であることに改めて気付かされた一冊でした。

重松ワールド全開です。人間の強さと弱さ、そして哀しいほどの優しさ・温かさに、鼻の奥がツンとくること必至です。

鳥本恭稔先生

若い人が恋を成就させたいなら、あまり離れてはならない。また、近づきすぎてもいけない。

竹内一郎「人は見た目が9割」より

この文に限らず、周囲の人と良い関係を築くためのヒントがたくさん詰まった本です。心理学に興味を持ったときに出会った一冊です。

JASRAC 調停申し立て！

最近、こんなニュースがありました。「著作権料を払わずにCDや携帯音楽プレイヤー、パソコンなどでBGMを流していた美容室や飲食店に対してJASRACが使用料支払いなどを求める調停を各地の簡易裁判所に申し立てた」というニュースです。

どうしてこのようなことになったのでしょうか。そこには「著作権」という権利が深く関わっているのです。「著作権」というのは音楽や本を作った人が持っている権利で、例えば音楽CDの場合はCDの“所有権”ではなく、そこに収録されている音楽についての権利のことです。音楽にはたくさんの権利が重なっています。Aさんが嵐のCDを購入したとします。この場合CDそのものはAさんの物になりますが、その中に入っている曲は、曲を作った人、すなわち作詞作曲をした人ということになります。そのためお客からお金をもらう営利目的のお店で“曲”を無断で流すというのは、その曲を使って商売をするということなので、作った人が持っている「著作権」の侵害にあたるわけです。

でもBGMの無いお店はさびしいですよね？ではどういう場合なら良いのでしょうか。一番簡単なのはラジオをそのまま流すということです。これは違法になりません。それでも、自分の好みのアーティストのCDを流したいときは、JASRAC（日本音楽著作権協会）の許可が必要です。この場合、お店の面積によって料金が違います。一般的に店舗が500平米以上の場合は月額500円かかることになります。

続いて画像に関する著作権についてです。インターネット上で著作権フリーと表示されているものは自由に許可なく使うことができますが、著作権フリーでない場合、著作権者（絵を描いた人や作った人）の許可が必要です。だからLINEやTwitterなどで画像を貼る際には十分な注意が必要になります。

このように「著作権」と一口に言ってもたくさんの細かいきまりがあります。これらをすべて理解しろというのは難しいことですが、公共の場所やSNSで画像や音楽を使うときは一度「これは著作権に触れていないかな？」「許可されているフリー素材かな？」など考えてから使うようにして下さい。

なにも気にせず使っていると後で大変なことになるかもしれませんよ。

『ちょっと待って、そのコピペ！』
林幸助著 実業之日本社

河原俊介先生
葛の花　踏みしだかれて　色あたらし。
この山道を行きし人あり
釈迢空「　海やまのあひだ」　より

歌人であり、民俗学者でもあった折口信夫の有名な歌です。「この道を行くのは自分だけではないんだ」と、不思議に人を勇気づけてくれる歌だと、初めて読んだ時に感じたものでした。

須貝源太先生
愛におそれなし。　三浦綾子　より

読後、本の詳細や言葉は、私は忘れてしまいます。ですから、心中に見つけられるのが、とても短いこの文(言葉)となりました。三浦綾子さんの何かの小説からです。聖書の言葉なのでしょう。

いっとき私は、三浦さんの作品群に傾いていました。身の内のどこかに、それらの伝えようとしたものが少しは残っていてくれたらと思います。色々と不真面目な私が三浦さんを好んで読んでいたらという事実が、今は自分にとっての「救い」かもしれません。

1－3棚田真由
「ここには12色の色がある　目立たない色もあるけれど　みんな頑張っている　一つ一つ
豊島加純【詩・絵】/こやま峰子【文】
「いのちのいろえんぴつ」より

これは脳腫瘍によりわずか11歳で亡くなった豊島加純さんの詩です。加純さんは10歳で病気にかかり右手が動かなくなっても左手で詩を書き続けました。

この詩はその中でも私が一番好きな詩です。どんなに辛くても、自分だけじゃない、みんな平等なんだと勇気を与えてくれます。また、生きることがどんなに素敵か、加純さんだからこそ伝えられる命のメッセージです。

堀川智恵先生
「この世には、われわれに見る目があれば見えるものが、愛せる心があれば、愛せるものが、わがものにせんと引き寄せる手があれば、引き寄せられるものが、いくらでもある。
男と女の中にも、いくらでも、芸術と文学にも、いくらでも、あらゆるところに、いくらでも、喜びを感じ、感謝の念を感じることができるものがある。」
L·M· モンゴメリ『赤毛のアンシリーズ「アンの愛情」』より

どんな状況におかれていても、「自分の現実」は、自分の見え方・考え方・感じ方がつくると思います。辛い時は何もかもが嫌になりますが、それは周囲に原因があるのではなく、自分の考え方のせい。
アンのように、「いくらでも」愛せるものが周囲にあることを、絶対に忘れないでいたいと思いました。

2－3山本康平
俺たちはカカシを怒らせることにも成功したんだ。
伊坂幸太郎「　オーデュボンの祈り」　より

この物語には「未来を予言し、人と会話するカカシ」が登場します。そのカカシがかつて人間について怒ったことがあると語った時に、登場人物の一人が発した言葉です。本来ただのモノであるカカシさえあきれさせ、怒らせる人間の愚かさを、更に愚かな「俺たち」の一人である自身を、あくまで穏やかな口調で皮肉っています。自己、他者、人間というものに対する静かな幻滅を表現した痛烈な一文です。

2－7山本京佳
いい絵にしよう。そしてあなたに贈ろう。お金のかかった大袈裟な花束の代りに。
柴村仁「プシュケの涙」　より

プシュケの涙は榎戸川と由良という高校生の少年が吉野という同じ高校に通う少女の自殺の真相を追う前編と、由良と生前の吉野との話が描かれた後編があります。
ラストページのこの文を読んだ時、前編での吉野はどのような気持ちで死に直面したのだろうかと悲しく、切ない気持になりました。

局員の日常

1－3小山内鈴乃
春が二階から落ちてきた。
伊坂幸太郎「重力ピエロ」　より

これは書き出しの一行です。読んでいくうちに人名であることがわかりますが、最初は季節の“春”が落ちてきたのかと思いました。
え！季節が落ちてくるって？ただただ驚き衝撃を受けた一文です。

高校生のための文化講演会
そうか、そうだったのか

図書室に展示中
“奥田先生コーナー”

「メリットの法則」」
集英社新書
「マンガ版　拝啓、
アスペルガー先生」
飛鳥新社

6月22日（月）の1、2時間目に、行動分析学のエキスパートである奥田健次先生がご講演をしてくださいました。先生のお話の中で私が一番興味深いと思ったのは、「メリットの法則」についてです。「メリットの法則」とは、人の行動は全てその行動をした結果得られるもののためにしている、という論理です。例えば、「トイレに行く時電気をつける」という行動は「暗いから」ではなく「電気をつけたら明るいから」する、というものです。いままでの常識を覆すような考え方にとても驚きました。
その考え方を自閉症の子供たちの治療に応用していて、斬新だけれどきちんと効果がある方法でした。もっと詳しい話が聞きたいと思ったので、奥田先生の著書、「メリットの法則」を読んでみたいと思います。

くすみ書房さん ありがとう！

6月20日（土）図書局は書店へ行き、図書室に入れる本を選んできました。より多くの人が興味を持ってくれるような本や、役に立つような本を選ぼうとみんな真剣に取り組みました。
この選書活動は毎年くすみ書房で行っています。また稲雲生は教科書購入でも琴似の販売センターを利用しています。この日はくすみ書房が閉店する前日ということで、お世話になったことを思うと感慨もひとしおでした。最後に伺うことができ本当によかったです。